

-Index-

英語学習（中学部の取り組み①）

チャレンジ！発音指導 ⑭

小学生の通級指導教室でのこぼれ話（通級担当より）



英語学習（中学部の取り組み①）

みみネット10月号（No.324）では、英語学習（小学部の取り組み）について掲載しました。今号では、中学段階での指導方法について、本校中学部教員（和泉）より、ご紹介します。

中学校では、昨年度から新学習指導に対応した新しい教科書に変わり、今まで高校1年生で習っていた仮定法等の文法事項が中学3年の教科書に含まれるようになりました。

以前よりも内容が高度になった中学英語ですが、その内容について、できるだけ分かりやすく、そして覚えやすく生徒に伝えるため、日々教材研究に取り組んでいます。

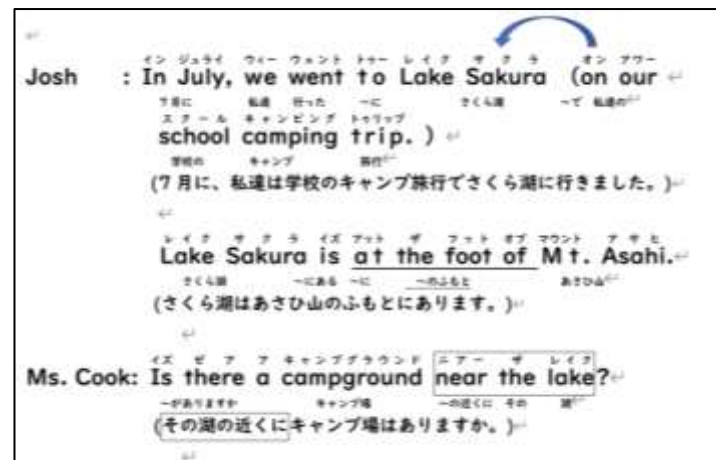


単語や本文の読み方の配慮

英語やフランス語などの一般的な語学学習では、教科書の本文や単語の読み方や発音、リスニングの問題など、聴覚を活用する場面がたくさんあります。本校では、高度難聴や重度難聴の生徒も多く在籍しているため、聴力の差が英語力の差にならないように様々な工夫をしています。

まず、新出単語についてですが、全ての英単語にルビを振ったプリントを配付しています。導入で単語の意味を確認するときには、単語の読み方が分からないまま授業についていけなくなってしまう状況が起こらないように、指文字を使ってみんなで一緒に発音するようにしています。

教科書の本文においても、全ての英文にルビを振ることで、本文を音読する際、読み方の分からない単語がないようにしています。

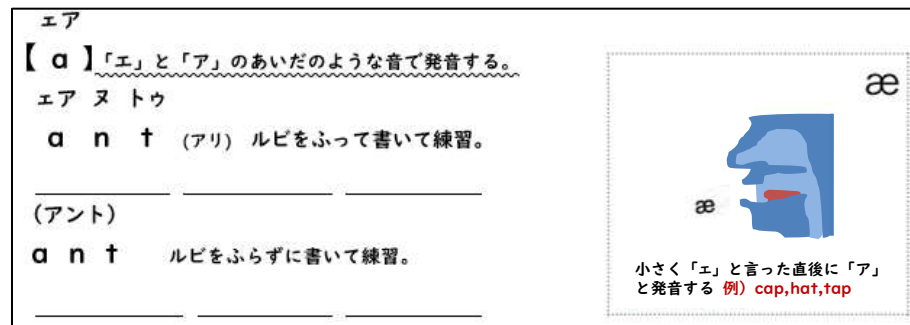


（自作プリント：中1教科書の本文 Unit 11 パート2の本文解説）

フォニックス(Phonics)や発音記号

単語のスペルを覚えるときに役立つのが、フォニックスです。フォニックスとは、主に「英語学習の初心者を対象に綴り字と発音の関係を教える語学教授法」のことで、地域の中学校では必修ではないため、学校によって教えるところと教えないところがあるようですが、本校では生徒達の様子を見つつ、負担にならない形で教えています。

フォニックスを教える場面では、発音記号と口形の横からの断面図をセットにして、きこえにくくても音のイメージが持てるようにしています。



（自作プリント：フォニックス）

文法学習

文法については教科書の Unit ごとに文法の学習内容が決まっています。授業では、①学習する Unit の文法プリント、②新出単語の確認、③教科書の Unit の本文の内容確認の順で授業をしています。

文法の説明では、毎回文法の説明プリントを作成して行っています。内容は高校受験を意識して教科書や教科書対応のワークブックから一歩踏み込んだやや詳しい内容になっています。しかし、文法解説はできるだけ分かりやすく丁寧に記載するようにし、例文や練習問題の英文には全てルビをつけて配慮するようにしています。また、文法の説明のあと、すぐに練習問題をすることで、文法事項をできるだけ授業時間内に覚えられるようにしています。

中学部 3 年 文法プリント

Grade () class () name ()

【解説】^{レット}let + 目的語 + (動詞の原形)

1. [^{レット}let + 目的語(人) + (動詞の原形)] は [目的語(人)に～をさせる]^{しよき}(使役) の意味。

※「^{レット}let」の後に目的語(この場合は普通「人」をおきます。)を続けてから、動詞の原形を続けます。(高校英語ではこの文の(動詞の原形)を原形不定詞^{げんけいふていし}という。)これで「(目的語)に(動詞の原形)をさせる」という意味になります。

^{アイル}I'll ^{レット}let ^{ユー}you ^{ノウ}know ^{ホウエン}when ^{アイ}I ^{グット}get ^{ホーム}home.

私が家に着いたら、あなたに知らせます。

2. 1の[人の部分]は、人が[代名詞のときは目的格]にする。

目的格 → 変化表の3番目 → ^{ミー}me, ^{ヒム}him, ^{ハー}her, ^{ゼム}them, など

(自作プリント:中3教科書 Unit3 Read&Think I の文法『Let[help]+(人など)+動詞の原形』)

次号では、リーディングテスト(音読テスト)の実施方法や、英検の実施と対策等について、本校中学部の取り組みをご紹介します。

チャレンジ!発音指導 ⑭

ワ行音

今号から、各行音の指導についてお話していきます。

ワ行音は比較的調音の簡単な音だと言われています。ワ行音の中で、子音を持つのは「ワ音」だけで、他の音はア行音と変わらないとされています。(ただし、地方によっては、「オ」と「ヲ」をはっきりと区別している場合もあります。)

「ワ」の子音は[w]で両唇摩擦音です。この音は、半母音とも半子音とも言われています。基本的には、唇を小さく丸めて、声を出せばよく、舌の位置は、奥まった位置で奥舌を摩擦が生じない程度まで持ち上げます。

練習法としては、「ウ」の構えから「ア」と発音する指導法が有名です。「ウの口の形から、アをつけます」といった用語を利用して指導し、段々と「ウ」音は構えだけで発音せずに、「ア」音に移行し「ワ」音を完成させていきます。この方法で「ワ」と言えるようになったら、「ワ」を含む2音節、2音節の語で練習を重ねていきます。

「ア」や「バ」などに誤る場合は、唇を閉じないで「ウ」の形から始まることを鏡で確認しながら模倣を促していきます。

小学生の通級指導教室でのこぼれ話 (通級担当より)

通級指導教室では、児童が自由に話す内容を丁寧にききとっています。

先日、補聴器の話をしているときに「補聴器をつけたままマスクを外すと引っかからないの?」と尋ねると、「マスクはな、紐を上から大きく外すと補聴器に引っかからずすぐ取れんねん。慣れたら簡単やで。」という答えが返ってきました。別の子は「マスクの紐が太いと外しやすいねんで。」と言っていました。

日常生活の中で、子どもたちは自分で考えて工夫を重ねています。その姿を見つめて、さりげなくことばをかけていくことは信頼関係を育みます。今後も、子どもから何か教えてくれるかもしれません。

「みみネット」編集部:

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当:中咲、金森

〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31

TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800